

平成 28 年度 講演会開催結果（概要）

平成 28 年 11 月 1 日、「松江エクセルホテル 東急・オークの間」（島根県松江市）で、平成 28 年度講演会事業「日本の“農”講演会 2016 in 島根」を開催しました。

本講演会は開拓営農に取り組んでいる開拓者・農業者等の資質向上や営農推進を図るため、会員の所在する都道府県において開催するもので、昨年度熊本県での開催に次ぎ、6 回目の開催となります。

開催にあたっては、島根県、松江市、島根県農業協同組合中央会、島根県畜産振興協会、三瓶開拓酪農農業協同組合、山陰中央新報社、全国開拓農業協同組合連合会にご後援いただきました。



今年度は、講師に鈴木宣弘教授（東京大学大学院教授 農学博士）と山田智子氏（有限会社ハーバルサンケイ代表取締役）をお招きし、食糧・農業に関するご講演をいただきました。

第 1 部は、「内外情勢と食・農・暮らしの展望」と題し鈴木教授に講演いただき、日本が批准を急いでいる国会審議中の TPP 協定に関し、「TPP の真実」として振り返り、検証されました。

昨年 10 月の大筋合意は日本のみが 7 年後の再交渉を義務づけられた点や影響試算前に国内対策が示されたのは逆とし、その影響試算も農業生産減少額が過少見積もりになっている等、数々

の問題点があることを厳しく指摘されました。

特に TPP の影響が大きい肉用牛、養豚、酪農の収益性を飼養頭数規模別に独自試算し、多くの経営体で赤字になってしまうことを危惧し警鐘を鳴らされました。

さらに、食の安全性についても危惧の念を表し、EU などと比較し日本では「成長ホルモン」や「遺伝子組み換え食品」の更なる拡大、「食品添加物の基準緩和や表示問題」などで健康リスクが高まることを指摘されました。



第 2 部は、「プラス 20% の『おすそわけ』～農家からのメッセージ」と題し、山田智子氏に講演いただきました。

山田氏は福岡市在住で農商工連携プランナーとして、全国各地の農産品の流通や商品開発に関するアドバイスをされており、農家の 6 次産業化やブランディングを得意とされています。



講演では、まず、野菜農家一戸当たり消費者30人のサポーターをもつことで、経営が成り立つとし、そのためには消費者へのメッセージが必要と強調されました。

近年の国内で流通される主要農産物の様々な変化（色や形状など）や多様な嗜好の変化につき具体的に写真で解説され、消費マインドの変化に合わせた産地農家の迅速な対応により、農家経営の安定化を図れることを実例と合わせ説明されました。

また、自分の農産物の原価試算をして経営を前向きに考え、「自分が作っている農産物で、消費者に何をアピールしたいのか伝えて欲しい」と熱く呼びかけました。



講演会は、開拓関係者や農業者の方だけでなく、県内在住・勤務されている方々など、130名の参加者にお集まりいただき、皆さん熱心に両先生のお話に聞き入っていました。

各講演終了後には参加者より質問や意見が相次ぎ、大盛況のうちに終了することができました。